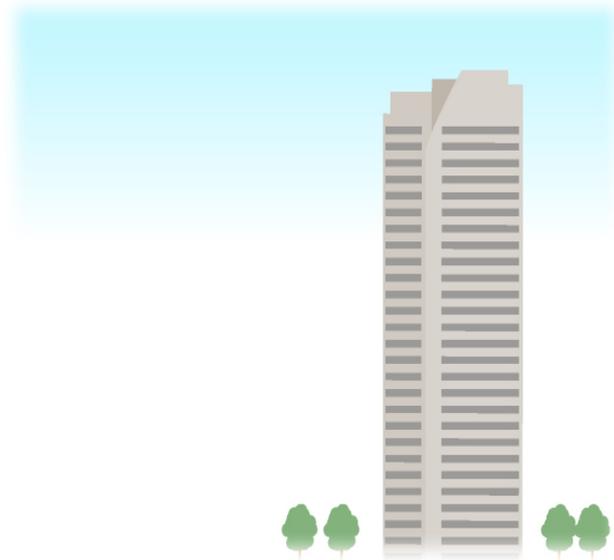




2010 環境報告書



..... CONTENTS

▣はじめに	1
▣基本理念／方針	2
▣環境マネジメントシステム組織	2
▣環境活動の取り組み	
1. 使用エネルギー（化石燃料）削減の取り組み	3
① 全エネルギーの使用割合	3
② 当社の使用電力量	3
③ 省エネ法による特定事業者の指定	3
④ 具体的な取り組み	4
⑤ コピー用紙使用量と古紙リサイクル状況	7
2. 地球温暖化への取り組み	8
① CO ₂ 排出量の推移	8
② CO ₂ 削減への取り組み	8
▣地域への環境貢献活動	12
① 協働の森づくり事業	12
② 清掃活動、地域の美化、海岸の清掃等	13
③ 天然干潟の保護活動	14

はじめに

2011年3月に発生した東日本大震災は、多くの人命を奪い、建物・道路などに甚大な被害をもたらしました。

当社は、今回の東日本大震災の発生直後に対策本部を立ち上げ、大混乱の最中においても橋梁の損傷点検や応急の補修工事などの支援を積極的に行い、緊急輸送ルートの早期確保を実現するために貢献しました。

また、再生可能エネルギーとして、風車発電への注目も集まっており、当社も風車事業を通じて社会貢献を果たして行きたいと考えております。

このように、当社は、橋梁・建築鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて、社会資本整備に貢献するとともに、エネルギー使用量の削減や産業廃棄物の削減など、事業活動で生じる地球環境への負荷低減に向けて積極的な展開を行っております。

今回、2010年からの取組み状況を「環境報告書」として取り纏めました。

これからも環境負荷低減に向け、会社一丸となって活動を推進してまいります。

代表取締役社長 須賀 安生

環境経営方針

- ① 環境マネジメントシステムを活用し、環境負荷低減に向けた継続的改善を推進する。
- ② 風力事業等を通じて、再生エネルギーなどの環境事業会社として社会貢献を行う。
- ③ 橋梁建設事業においては、環境負荷低減に向けた積極的な技術提案を推進する。
- ④ 地域活動への積極的な参加を行い、環境改善に貢献する。

基本理念／方針

基本理念

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、建築鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて国民のための社会資本の整備に貢献するとともに、製造、建設に伴うエネルギーの使用や産業廃棄物などに配慮した活動により、地域ひいては地球環境保護への貢献に努める。

方針

1. 「顧客満足」を頂ける製品の提供とサービス向上と、地域環境の汚染予防に努める。
 - ・製品に対する品質管理の徹底を図る
 - ・生産性の向上による企業体質の強化を図り省エネルギー、省資源に努める
 - ・環境事業をはじめとする環境を考慮した新規事業の拡大を図る
 - ・環境保全および健康管理に配慮した活動により無事故、無災害を目指す
 - ・リサイクル活動の推進により産業廃棄物の削減を図る
2. コンプライアンスの徹底および内部統制システムの実施により責任ある企業活動を展開する。
 - ・専門的知識や技術と経験を踏まえ総合的知見から企業活動を推進する
 - ・企業活動に関連する法律、条令、行政との協定など社会規範や社会的責任を順守する
3. 品質と環境を統合したマネジメントシステムを構築し、全従業員参加による効果的運用を図る。
 - ・全従業員が品質・環境を統合したマネジメントシステムの構築に参加し、その趣旨を理解して積極的活動を行う
 - ・全部門において品質・環境の目標(目的)を設定し、レビューすることでマネジメントシステムの有効性の継続的改善に努める

2009年5月1日 取締役社長 須賀 安生

環境マネジメントシステム組織

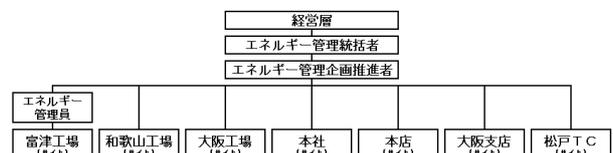
下図に示す組織が環境マネジメント組織で、基本理念・方針は社長から管理責任者・環境品質委員会を通じて各サイト長（各事業所の環境活動責任者）より全従業員に周知されます。

環境品質委員会は四半期毎に行なわれ、社長以下、各サイト長が出席する重要なコミュニケーションの場となっています。この委員会では環境活動の実績と評価を報告し、改善の提案や情報の提供などを行なっています。また、使用エネルギー（化石燃料）削減に向けた取り組みは、「省エネ推進委員会」を設置し、環境品質委員会と併せて活動を行っています。

環境マネジメント組織



省エネ推進委員会



環境活動の取り組み

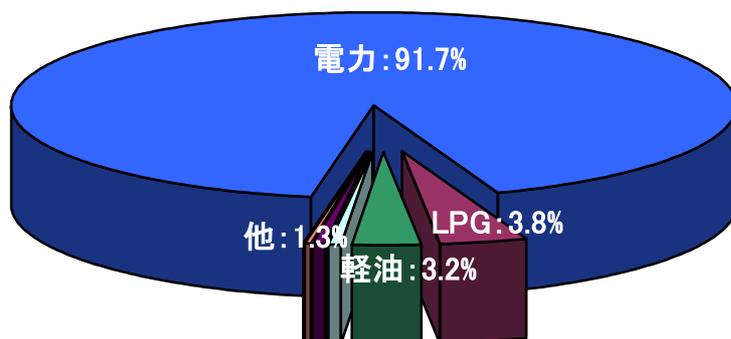
1. 使用エネルギー（化石燃料）削減の取り組み

①全エネルギーの使用割合

当社の事業活動により使用するエネルギーの割合は【表-1】のとおりで、9割以上が電力で占めています。

【表-1】 全社3年間のエネルギー使用量

	2008	2009	2010	年平均	係数 (熱量GJ)	係数 (原換kl)	年平均 (kl)	比率
電力(千kwh)	12,227.9	11,061.3	12,419.0	11,902.7	9.97	0.0258	3,061.7	91.7%
LPG(t)	111.2	95.0	88.0	98.1	50.20	0.0258	127.0	3.8%
軽油(kl)	103.6	99.4	119.5	107.5	38.20	0.0258	105.9	3.2%
ガソリン(kl)	20.0	20.0	21.5	20.5	34.60	0.0258	18.3	0.5%
灯油(kl)	17.2	13.7	16.6	15.8	36.70	0.0258	15.0	0.4%
A重油(kl)	10.0	8.5	9.0	9.2	39.10	0.0258	9.2	0.3%
都市ガス(千m ³)	0.2	1.5	1.4	1.0	45.00	0.0258	1.2	0.0%

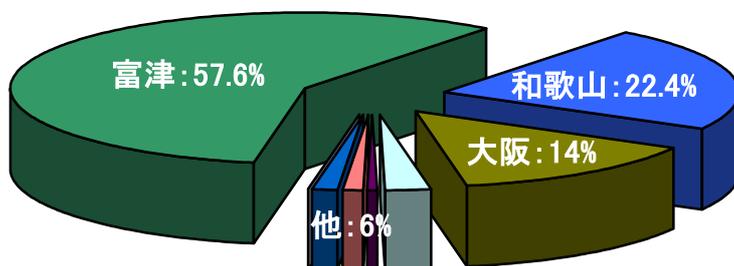


②当社の使用電力量

当社の電力使用量の94%が富津工場・和歌山工場・大阪工場で使用されています

【表-2】 全社3年間の電力使用量（千kwh）

	2008	2009	2010	年平均	比率
富津工場	6,844	6,306	7,428	6,859.5	57.6%
和歌山工場	2,577	2,606	2,803	2,662.0	22.4%
大阪工場	2,127	1,419	1,460	1,668.5	14.0%
松戸TC	321	308	282	303.6	2.6%
東京本社	58	60	78	65.4	0.5%
大阪本店	139	137	140	138.4	1.2%
大阪支店	138	149	145	144.1	1.2%
各営業所・他	24	76	84	12.1	0.1%



③省エネ法による特定事業者の指定

改正省エネ法により、当社は特定事業者の指定を受け（富津工場は第二種指定工場）努力目標として全事業所のエネルギー使用量（原単位）を年平均1%、5年間で5%の削減が求められています。当社は【表-1】【表-2】より、各事業所にて電力使用量の削減努力をし、エネルギー使用量（原単位）を年平均1%、5年間で5%の削減目標として取り組んでいます。

④具体的な取り組み

・ハード面での取り組み

設備導入による改善 → 投資を伴う改善 → 経営者が関与する改善 → 中長期計画

・ソフト面での取り組み

ルールの見直し → 投資を伴わない改善 → 実務者による改善 → 管理標準改訂

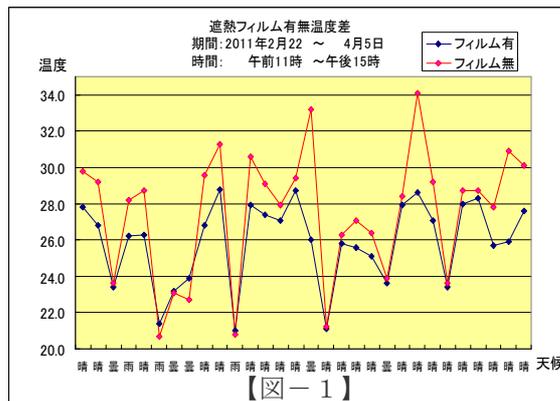
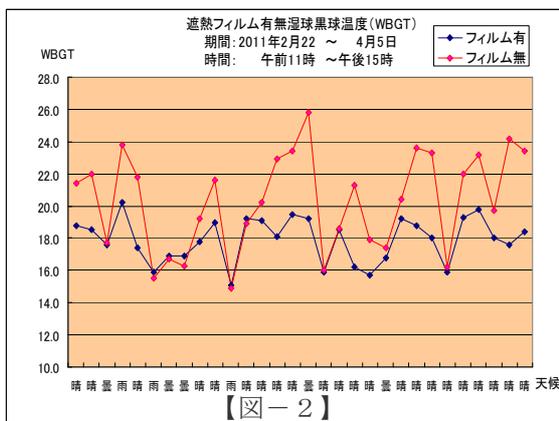
・ハード面での取り組み

【富津工場】

2011年2月に富津工場事務棟2階にてエアコン消費電力量を抑えるため遮熱フィルム施工を試験的に実施しました。調査内容はフィルムを貼っている場所と貼っていない場所での『照度』『温度』『湿球黒球温度(WBGT) ※』を30日間調査しました。

温度は【図-1】に示すように天候に左右されるが最大で7.2℃の温度差が出ました。湿球黒球温度(WBGT)は【図-2】に示すように天候に左右されるが最大で6.6℃の差が出ました。また、日光が入らないようブラインドを閉じていたため日中でも室内照明が必要となっておりましたが、それも不要となり、照明の節電効果も出ました。

※湿球黒球温度(WBGT)とは、熱中症を予防するため国際的に利用されているもので、湿度・気温と放射(熱輻射)を考慮した暑さ指数
Wet Bulb Globe Temperature の頭文字をとって WBGT



【図-1】、【図-2】の調査結果を踏まえて事務棟4階・鉄構生産管理棟2階に遮熱フィルムを施工しました。



事務棟4階遮熱フィルム貼り付け前

事務棟4階遮熱フィルム貼り付け後

・窓ガラスから入る太陽の日差しをカットしますので、室内に熱が入り難く室内の温度上昇を軽減し(2~3℃減)快適な職場になります。

【富津工場】
厚生棟の蛍光灯（FLR型84本）をLEDに更新



	FLR型	LED
消費電力(w)	32	21
点灯時間(h)	4	
年間稼働日数	237	
更新灯数	84	
CO ₂ 係数	0.384	

※CO₂ 係数は2010年度東京電力の排出係数

電力削減：年間約 876 kwhの電力削減になります。

CO₂ 削減量：年間約 34 % のCO₂ 削減になります。

【大阪工場】
緑のカーテンを実施



写真は2010年、事務所東側のひょうたん、へちまの状況です。

種類	2010年	2011年
ひょうたん(苗)	40	50
へちま(苗)	20	
あさがお(種)		80

大阪工場ではその他に、ライトダウンキャンペーンにも参加し、積極的に環境活動に取り組んでいます。



・ソフト面での取り組み

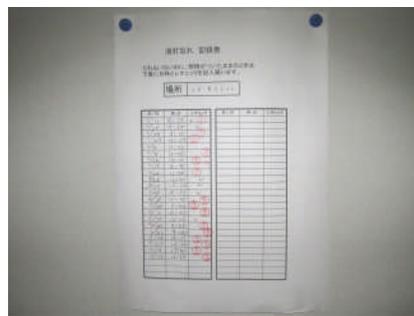
【富津工場】



橋梁加工棟にて、作業場ごとの照明配置図を見て、無駄な照明を消す。



事務棟、昼休み消灯励行



トイレスイッチの切り忘れチェック表

【大阪本店】



昼休み消灯励行



エアコン設定温度周知徹底

【大阪支店】

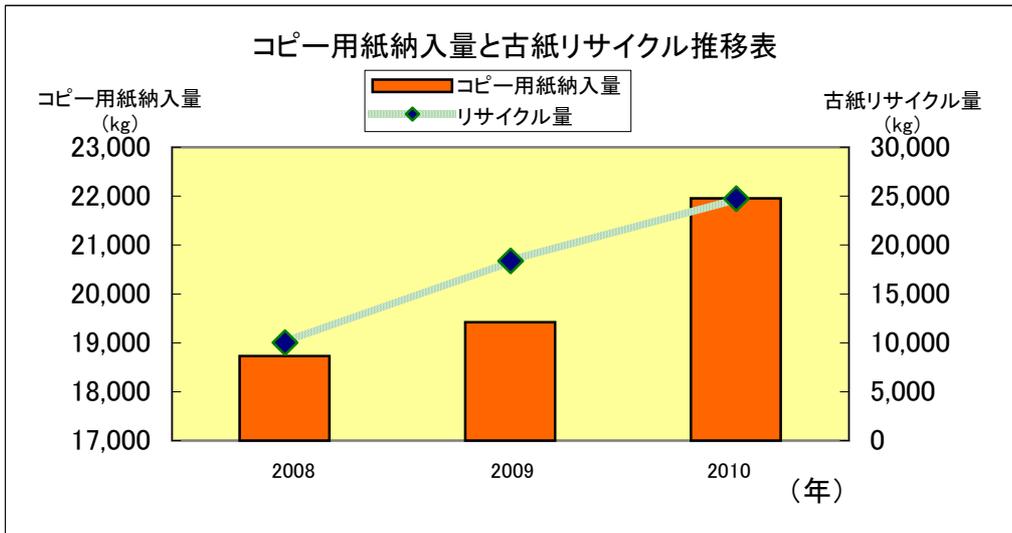


コピー用紙の使用量チェック



事務所の照明配置図を見て、無駄な照明を消す。

⑤コピー用紙使用量と古紙リサイクル状況



	2008	2009	2010
コピー用紙納入量 (kg)	18,729	19,425	21,952
古紙リサイクル回収量 (kg)	10,020	18,370	24,760

富津工場ではコピー用紙使用量は年々増加しています。ミスコピー、電子文書の取り組みが急務とされます。

富津工場事務棟では、2008年8月より古紙リサイクル活動を実施しています。

古紙リサイクル活動前は、産業廃棄物として12/kg払っていました。
 2008年～2010年の合計 (kg)
 $10,020 + 18,370 + 24,760 = 53,150$
 $53,150 \text{ kg} \times 12 \text{ 円} = 637,800 \text{ 円}$
 の節約になりました。



古紙回収にご協力をお願いします。

- ① 図面・雑誌・カタログ
- ② コピー用紙(ホッチキスの針は付いたままでも結構です。クリップは外して下さい)
- ③ 厚紙(※ダンボールは含みません) 上記種類別に専用のコンテナに入れて下さい。

協力ありがとうございます!

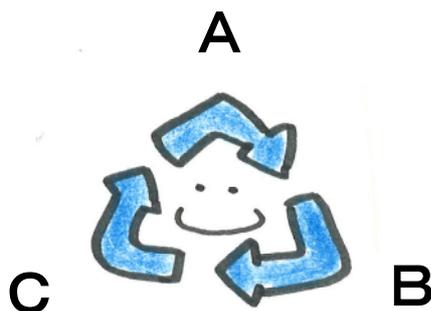
平成 20 年 8 月より皆様のご協力を頂戴しております古紙リサイクルの取り組みにつきまして、以下の通り経過報告致します。☺
 回収日 : H22.11/29、H22.12/21、H23.1/20、H23.4/4☺
 回収量 : 11,800kg☺
費用削減額(今回) : 141,600円 累計 : 637,800円☺
※ 費用削減額は紙ごみとして処理した場合の金額(1kg当たり12円)から算出しています。...
 今後も引き続きご協力の程、宜しくお願い致します。☺



未来の地球のために!

平成 23 年 4 月 7 日 資材課 / vol.10.

A 各フロアーに分別BOXの設置



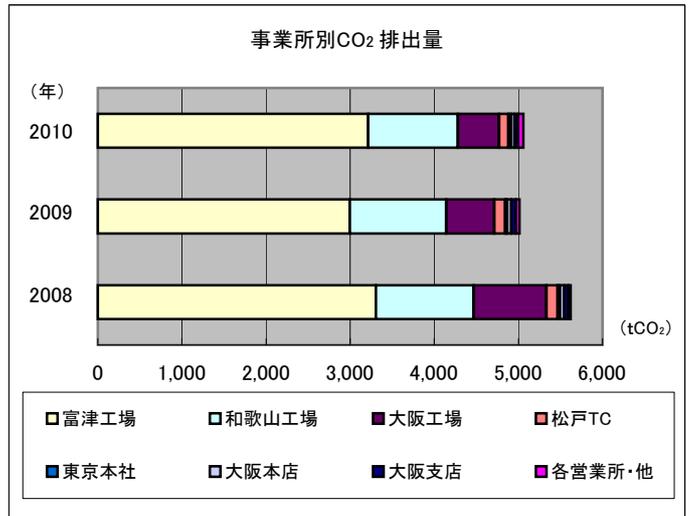
C その都度、産廃業者に回収してもらっています

B サイズ別に仕分けし、屋外コンテナに一時保管

2. 地球温暖化への取り組み

①CO₂ 排出量の推移

CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	2008	2009	2010
富津工場	3,306	2,998	3,214
和歌山工場	1,164	1,145	1,068
大阪工場	863	571	491
松戸TC	136	129	108
東京本社	25	26	31
大阪本店	51	49	42
大阪支店	50	53	43
各営業所・他	31	45	67

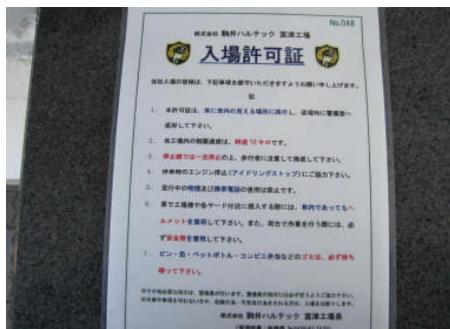
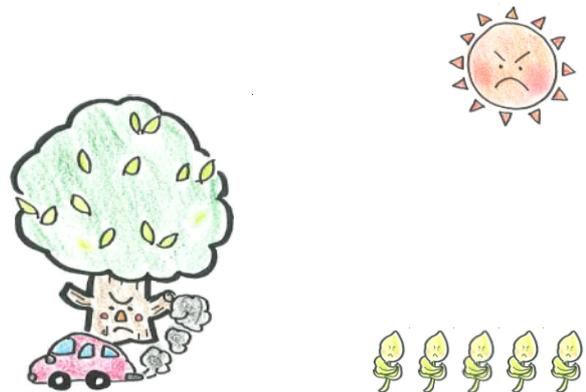


当社の使用エネルギーは全体の9割以上が電力なのでCO₂削減には、電力量を削減しなければいけません。

②CO₂削減への取り組み

・アイドリングストップ

富津工場では出入り業者に対し、アイドリングストップの励行を実施しています。



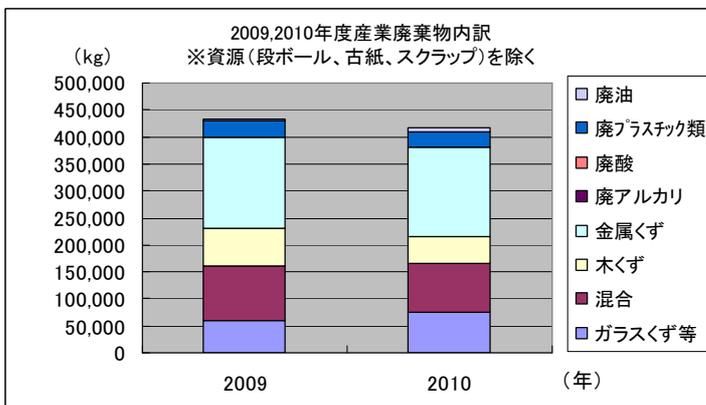
1. 本許可証は、常に車内の見える場所に掲示し、退場時に警備室へ返却して下さい。
2. 当工場内の制限速度は、**時速10キロ**です。
3. **停止線では一旦停止の上、歩行者に注意して発進して下さい。**
4. **停車時のエンジン停止(アイドリングストップ)にご協力下さい。**
5. 走行中の喫煙及び携帯電話の使用は禁止です。
6. 車で工場棟や各ヤード付近に侵入する際には、**車内であってもヘルメットを着用して下さい。**また、荷台で作業を行う際には、**必ず安全帯を着用して下さい。**

・産業廃棄物分別要領（富津工場）

富津工場で出る産業廃棄物は、責任者を決め、色分けした専用の BOX に分別しています。



産業廃棄物専用 BOX に入れて良い物、悪い物を『文字』、『絵』のたて看板にて表示しています。



2009, 2010 年度富津工場より出た産業廃棄物内訳です。



・産業廃棄物要領（和歌山工場）



和歌山工場内で出た産業廃棄物は、
管理者が工場外の BOX に分別します。

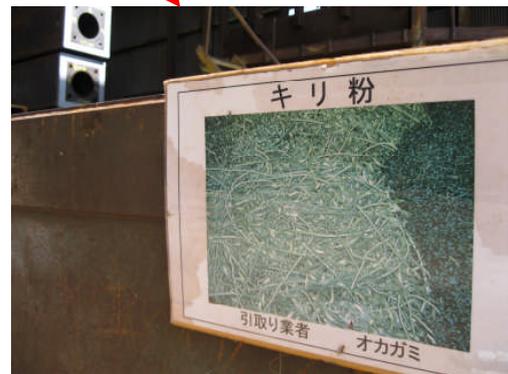


和歌山工場ではスクラップ、産業廃棄物、ゴミ箱を工場屋内に設置しません。



・産業廃棄物要領（大阪工場）

大阪工場ではそれぞれのゴミ箱に解りやすいよう、入れて良い物の写真を付けています。



引き取り業者名を入れることにより、誰でも対応できるようにしています



地域への環境貢献活動

①協働の森づくり活動

駒井ハルテックでは、高知県、同県土佐町、土佐町森林組合と「協働の森パートナーズ協定」を締結しています。高知県では、「協働の森づくり事業」という、企業と地域の協働で手入れの届かない人工林の整備を進める事業を推進しており、この協定で当社は事業に協力しています。

土佐町は、四国のほぼ真ん中に位置し、四国の水がめ早明浦ダムを擁します。町営堆肥センターを古くから運営するなど、循環型の地域づくりに取り組んでおり、当社では環境事業部が、風況調査を実施したり、太陽光発電施設の導入工事を受注したりするなどの縁がありました。



調印式の様子(右端は尾崎高知県知事)

今回の協定では、広さ48haの町有林を「土佐町 風の森」と名づけ、2010年からの3年間、当社の提供した協賛金によって同町の森林組合が間伐整備をします。

そして、2010年9月には、この協定のもう一つの柱である、企業社員と土佐町住民との交流イベントが、大阪・豊中市の土佐町産直ショップ「とさ千里」で開催されました。当社からは、須賀社長をはじめ社員とその家族約50名が、土佐町からは約20名が参加しました。当社からの参加者は、土佐町からの参

加者に指導をうけながら、間伐材を使った椅子作りをしたり、同町産のたけのこずしやこんにゃくを味わったりし、大変な盛り上がりとなりました。

この協定を通じて、当社は社会貢献を推進するとともに、整備された森林によって吸収される二酸化炭素量は、オフセット・クレジット(J-VET)として認定を受けることもでき、当社が削減した二酸化炭素量としてカウントすることができる、というメリットもあります。



交流イベントでの椅子作りは子供たちが真剣な表情で取り組みました

②清掃活動、地域の美化、海岸の清掃等

・富津工場周辺のゴミ拾い 2010年9月15日



・和歌山工場として年2回（春・秋）地域貢献として海岸沿いの清掃ボランティア活動を実施しております。

2010年9月25日 12名参加



2011年6月25日 14名参加



③天然干潟の保護活動

2011 年度、千葉県工業用水協会木更津南部支部長として、駒井ハルテック富津工場が以下の研修を主催しました。

- 日 程 2011 年 2 月 25 日（金）
- 場 所 盤州干潟（千葉県木更津市内）
- 講 師 金満智男（NPO 法人盤州里海の会理事長）、森山利也（海洋ジャーナリスト）
- 参加者 千葉県企業庁、新日本製鐵㈱、新日鐵化学㈱、東京電力㈱、君津共同火力㈱、
㈱かずさクリーンシステム、㈱荏原製作所
- テーマ 工業用水の安定給水により発展した東京湾沿岸工業地域。発展に伴い、一方で埋め立て等により干潟が減少している。干潟は、海水の浄化作用や海生生物の生息に欠かせない自然環境であり、天然干潟の保護を行うことは、漁業・環境など周辺地域の事業価値を高めることにも繋がる。企業活動における環境への配慮が責務となった昨今、工業の発展と環境の保護について再認識する。



会社概要

- ・社名 株式会社 駒井ハルテック
- ・代表者氏名 代表取締役社長 須賀 安生
- ・TEL/FAX TEL : 03 (3833) 5101
FAX : 03 (3833) 6788
- ・所在地 本社 〒110-8547
東京都 台東区 上野一丁目 19 番 10 号
- ・資本金 66 億 1,994 万円
- ・従業員数 527 名 (2011 年 3 月)
- ・HP アドレス <http://www.komaihaltec.co.jp/>

事業内容

- ・橋梁、鉄骨、その他鋼構造物の設計、製作、建設、診断、補修
- ・土木・建築工事の設計・請負
- ・風力発電機による売電事業

